

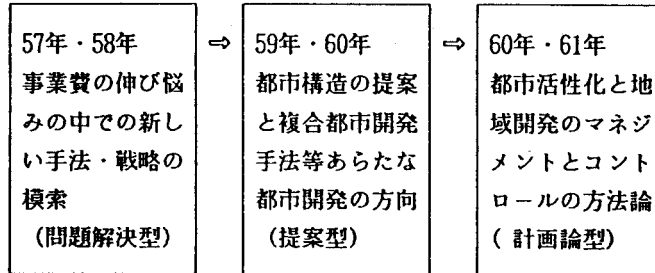
## 高密度・多様化社会における地域づくり に関する研究

共同研究グループ代表者 大阪府 正員 平峯 悠

### 1. 研究の方法と方向

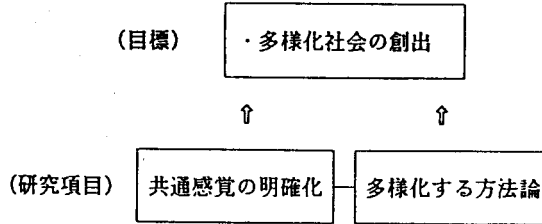
#### (1) 従来の取り組み

土木学会関西支部における都市開発、地域開発にたいする研究は、本共同研究グループに至るまで次のような経過をたどっている。



#### (2) 当研究グループの位置づけ

多様化社会を意識的に創出することを目的とする本研究は、システム分析的にはトップ・ダウンの流れとなる。目的設定型、理想追求型及びその達成型ということが



研究の方向とテーマの大枠を示すと、右に示すとおりとなる。

- 共通感覚等の研究内容—都市、地域のイメージ分析
  - ・ “ シンボル、景観設計
  - ・ 地域の明確化と意識化 (住民意識)
  - ・ 都市施設、都市基盤の役割と質的分析
- 多様化するための方法—現状の分析と評価 (計画者、市民、事業者)
  - 論の確立
  - ・ 現状手法の問題と多様化への対応
  - ・ 都市施設、基盤の新しい役割

### 2. 具体的研究内容

研究を進めるにあたっては、テーマとして次の3つに分類することとする。(図-1)

- ①原論
- ②方法論
- ③計画事業論

但し、統一テーマとして、「高密度・多様化社会における新しい地域都市づくりの方法論」を、基調とする。

Hisashi HIRAMINE

また、検討に際しては、A～Fの6グループによって行うこととする。

(1) 原論グループ (Aグループ)

(2) 方法論グループ (Bグループ)

①多様化の定義、分類、②ホスピタリティのハードからソフトまでの要素の抽出、③ソフト面でのアピール方法、④地域マネジメント (長期的マネジメント)

(3) 空間開発グループ (Cグループ)

①空間開発に求められていること (総合的環境計画)、②空間開発のキーワード (複合化・差別化・一体化等)、③新しい空間開発手法 (垂直方向・水平方向)

(4) 道路と開発グループ (Dグループ)

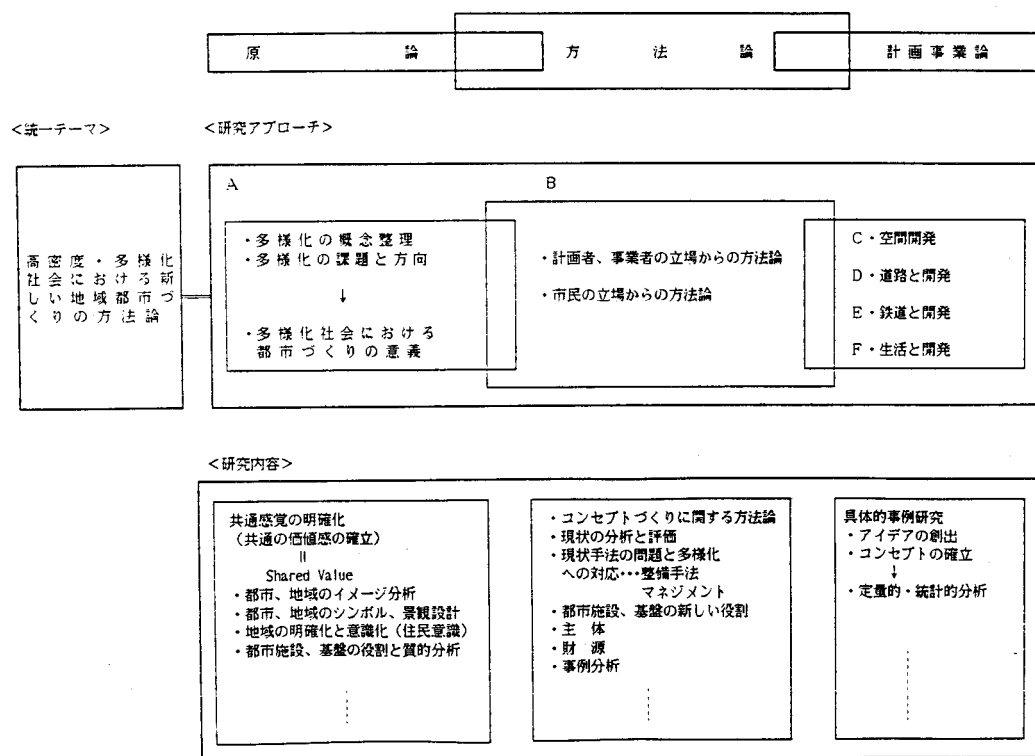
①多様化する社会と道路、②道路空間のあり方 (道路利用者の変遷、道路構造の変遷、道路空間の複合利用、道路ユーザーの多様化、道路空間提供者の多様化、精度の多様化)、③地域開発と道路のあり方

(5) 鉄道と開発グループ (Eグループ)

①開発の歴史と目的とした理念 (駅、沿線)、②現在の開発の例と目的、③今後の鉄道に求められるもの (駅、沿線開発、レジャー施設、まちづくり、車両等)、④今後の開発施設等のあり方

(6) 生活と開発グループ (Fグループ)

①「生活と開発」が取り上げられる必然性と背景、②住民意志を取り込んだ事業事例 (背景、手法、結果、生活の視点からの評価等)、③アメニティ、ホスピタリティ論の総括的集約



図－1 具体的研究テーマおよびアプローチ方法